

地下空間の浸水対策により鉄道の安全・安定輸送を守る (東京都大田区)

事業者：京浜急行電鉄株式会社



対策前



対策後

トンネル坑口の浸水防止壁を設置



対策名： No.148 地下鉄、地下駅、電源設備等の浸水に関する緊急対策

事業名： 鉄道施設総合安全対策事業（浸水対策）

- ポイント**
- 地下空間に入るためのトンネル坑口の浸水対策を実施
 - 地下駅の浸水を防止し、鉄道運行への支障を最低限に抑制

地域の概要・課題

京浜急行電鉄大鳥居駅は、京急蒲田駅から羽田空港第1・第2ターミナル駅までを結ぶ京浜急行電鉄空港線の駅です。

空港線の糀谷駅～大鳥居駅～穴森稲荷駅間は、大鳥居駅が地下区間となっており、かつ地方公共団体等が指定した浸水想定区域に位置していることから、河川氾濫による浸水被害が生じる可能性があります。

【見込まれる効果】

当該区間は、多摩川の想定最大規模降雨（千年に一度）において、1.8m浸水する想定であるが、この浸水からの浸水被害を受けない想定です。

また、本緊急対策では、他の地域でも事業を実施しており、例えば、下記のような効果の発現も見込まれています。

【事例：大阪府泉佐野市】

空港アクセス線の防災機能の強化を目的とし、掘割部電気設備（接続箱等）を上部へ移設。浸水による指令等への送電停止や運休の未然防止といった効果が見込まれます。

事業の概要

京浜急行電鉄 空港線（大鳥居駅）の浸水対策として、大鳥居駅の浸水対策、地下区間に入るためのトンネルの坑口の浸水対策（浸水防止壁の高上げ、浸水防止扉の設置）を実施しました。

3か年緊急対策として、羽田空港方のトンネルの坑口の浸水防止扉の設置事業を実施しました。